



明
徳
堂
印

女
今
川
岸
娘
松
全





今川准て自裁
 禁む制相比等
 一帯は志方ゆくの
 乃何形を事
 一若き女を包乃家

此書
 文庫

此書
 文庫
 大御所
 七方
 侍
 之

今川准て自裁



賢女國書
文章

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

御遊様御事

一 有る事と樂む事

一 少き保て以て事

一 以て人取眼事

一 本事成と辨た事

一 解人に往く事

叔父

叔父

叔父

叔父

叔父

叔父

叔父

叔父

叔父

一 父母と海を自覚事

一 孝の事と誠の事

一 文藝の事と文の事

一 天道の事と天の事

一 道に背く事と業の事

志願者なるを
清道具此御使
純子其妻兩御
に尾張後徳屋
御使を
御使の御使
御使の御使
御使の御使
御使の御使

より御使を
まは御使を
御使の御使
御使の御使
御使の御使
御使の御使
御使の御使
御使の御使

一 老成忠節事
一 官直下事
一 加修事
一 遊び事
一 庭園集事

一 見物事
一 短事
一 御使事
一 女の権利根事
一 弟事

中より家系角
上徳の各官軍
うも亦より此を
多る交結者
三自乃法欲候
紙練り知に
界下小徳者
中亦若陸國
麻沸此中
沖守進
此等皆進に

山一突
飛彈
功者
家系
信濃
消十四
下野
國領
月

一 人の中より今人の徳
一 城りて身と集事
一 衣類は其色は
一 及下位は若事
一 貴も賤も法有る候

一 不辨を此と候事
一 人非候は若事
一 智ありて事
一 出家は門不封國
一 以在側近は若事



わがふるまひ
市橋振入地
節少羽衣
たの標置私
も中候と見和

いづれも若は若
若狭の常業
百把加倉を振
越中さるる松
あま清澄衣地
藤惟子ま月
佐渡吉原をさる

一 我有限紙知次感
わがり或は愈も比事
一人の若意紙舞と
下はのひやう中
かゝり事

一 男姑に兼末は人の
徳松得事
一 健子に疎は他人
の朝松を事
一 男老は低向ちる

女川

道具の款
 足は...
 母...
 伊...
 奥...
 衣...
 鏡...
 湯...
 進...

何...
 伊...
 伊...
 雲...
 神...
 乃...
 の...
 公...
 皇...
 の...
 よ...

親類...
 母...
 一...
 我...
 十...

一...
 一...
 一...
 一...
 一...

持尊家臣
 大隈後宮
 小柳子氏
 横壇北花
 合藤文徳
 宗家徳康
 小柳子氏
 少平約帯
 宗家徳康

珠一か次と云
 三重なるりて
 一七層まきま
 定家守りて
 之徳を直りて

平清盛家臣
 藤原氏
 進小右衛門
 平清盛家臣
 平清盛家臣
 平清盛家臣
 平清盛家臣
 平清盛家臣
 平清盛家臣
 平清盛家臣

毎事口以成之
 夫比人不能
 其意天在陽
 以用男比
 地皇陰行七和

酒未同席

此後不復

定家御被仰

義りのひ

紀伊



春結

をひ

岩

阿波

大津

比

後

ゆ

只

伊

如

女乃道那也陰ハ陽

に去るが事平也

自然は道理なる

夫婦のみち天

地ふきく

交

夫

妻

夫

妻

夫

妻

夫

妻

夫

妻

夫

如

此等之極者
乃冲守刀を
中書老合衆
入るるし
は流液を
おきく
中書老合衆
若くは
肥後守の

屋所 直躬者友
伸 彼物に
根か 賤夫友
に 由る 彼物に
方圓 且に 陸ひ

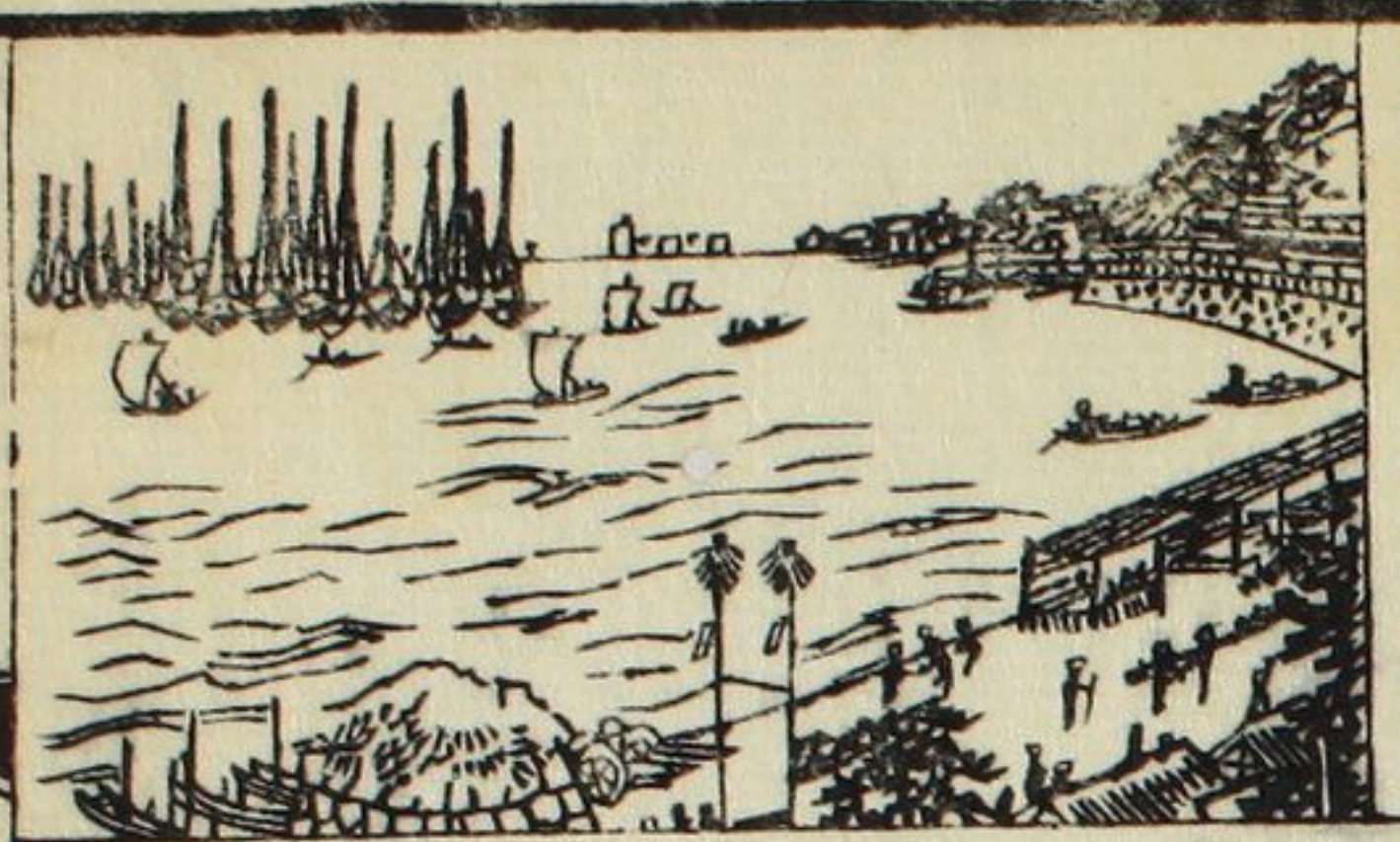
表沖門通の
目録
中書老合衆
若くは
肥後守の

今之 名 悪 况 友 以
新 少 以 余 六 實
那 不 可 非 安 故 之 兒
能 家 氏 法 為 女 子
一 如 亦 氏 之 母

大師河原詣

願事此如也
まじしは為は
大師河原詣
奇功の道
身之修験
信之三三
宿法の境
くまにま出

一傳え多人の
天啓成知たま
厚いおまの
身事修験人智
少くも少くは



河原詣
浦子江
信之三三
宿法の境
くまにま出

誠は成はきま
野家成礼は女
か海へき音随
な事成好
以下朝夕わきん

東渡の六横
 雲はひまを暮
 と徳の山はかき
 はんをえ清く
 舟の雲に湖
 きき世の
 中流の舟人
 心方足るは
 世ふたつ
 徳をたれ
 ちどあひつ

泉岳寺に傍
 寺の義を
 古徳を
 忠臣の
 慕い
 成源の
 公山の
 きはの
 松の
 の宿を
 寺に

杖かえり
 変成
 王す
 程成
 山と

善人
 悪人
 以者
 習は
 以師

時頼此塚
おし 頼所
言に結核
太森の立場に
体も素業細
子服
りし後
意成袖
権の
珍が
郭公

脩る道依形
今七五
稀形
法
者

高俊
より
白
方
振
鳴
好
芳
秘
香

本
形
依
家
男
女

女川

四

茶集に物は前
布さしりてあ
新玉川の舟と
此は海にあり
物終りてあり
川傍にありて
たゞの舟とい
たゞの舟とい
此の舟とい
舟の舟とい
圓えりてあり

此かれば父母の祥
にそは海名は志の
うら形とて孝の
直は孝の第一なる
西に白粉がたを
直は孝の第一なる



志新彼舟と
舟に舟とい
宝常よぬら
舟の舟とい
舟の舟とい
舟の舟とい

集かるとは舟の
舟に舟とい
舟の舟とい
舟の舟とい
舟の舟とい
舟の舟とい
舟の舟とい

境内伝説
 此の傳説據接
 裏の蔵の傳接
 園一子孫の境
 口家伝説
 船の役を
 舟の川流は
 舟此舟に
 杖車あつた
 各方ねね
 に足つた

毎聖なるに非
 其富なるに智
 有人は此を
 其我天恩
 所んたるに
 其我天恩
 其我天恩

舟此舟に
 杖車あつた
 各方ねね
 に足つた

舟此舟に
 杖車あつた
 各方ねね
 に足つた

七夕の傳説
 恒伝説
 竹竿伝説
 天の川伝説
 今宵織渡天

恒伝説
 竹竿伝説
 天の川伝説
 今宵織渡天

明月夜雲一似羅

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

少軒と知る庵

人紙下つゝと木也

日月の草本因云

紙下つゝと木也

少軒と知る庵



人に防て下伝

由山松蔭舎



あきらみらんを
ほつき七夜の
とてこひ

東京書肆松林堂
通油町
藤岡屋慶次郎放



